

**大和市市民環境調査事業**

# **ツバメ情報調査**

## **実施報告書**

**平成26年度（初年度）**



**相模大塚駅付近に営巣されたツバメの巣**



## 目次

1 はじめに	……1ページ
2 講習会の実施	……1ページ
3 調査方法	……2ページ
4 調査結果	……3ページ
5 まとめ	……6ページ



# 1 はじめに

ツバメは1984年～2001年に環境省が実施した、「身近な生き物調査」において、環境指標種に指定され、調査されてきました。近年、ツバメは減少傾向にあると言われており、その背景には、農業の衰退によりエサ場となる水田や耕作地の減少や、巣作りに適した日本家屋の減少などがあると考えられています。

そこで、大和市内でのツバメの生息状況を知ること、また、ツバメの生息状況と周辺環境との関連を明らかにすることを目的として「ツバメ情報調査」を開始します。

「ツバメ情報調査」は、市民の皆様にご協力いただき、調査を行う市民環境調査の一環として行います。

## 2 講習会の実施

日時：平成26年6月22日（日）14時00分～16時00分  
場所：大和市自然観察センター・しらかしのいえ  
参加者：17名

市民環境調査員として調査にご協力いただくにあたり、ツバメに関する基礎知識を学んでいただくことを目的として、大和市自然観察センター及び日本野鳥の会の協力のもと、講習会を実施しました。

講習会では、大和市で見られるツバメの種類やその見分け方、日々の生活スタイル、ツバメを取り巻く環境の変化について等の学習に加え、ツバメの標本を手にとって観察することも行いました。

時間	内容	講師
14:10～14:50	・ツバメの生態について	自然観察センター・しらかしのいえ 秋山 博 氏
14:50～15:10	・ツバメの現状について ・ツバメの子育て状況調査参加方法について	日本野鳥の会 伊藤 加奈 氏
15:10～15:20	・調査員証の授与	
15:20～16:00	・フィールドワーク 相模大塚駅周辺にて実際にツバメの巣を観察	

## 講習会中の風景…



• ツバメの日常について



• ツバメ標本



• ツバメを取り巻く環境の変化について



• 実際にツバメの巣を観察

## 3 調査方法

「市民環境調査員」の方に、市内に営巣されているツバメの巣を発見し、子育て状況を調査していただきます。

調査報告は、巣の発見場所や子育ての状況、その他気づいたことなどを、日本野鳥の会で運営する「ツバメの子育て状況調査」のホームページへ入力することにより行います。このホームページでは、大和市内だけでなく、日本全国で調査されたツバメの巣についての情報を閲覧することができます。

調査期間については、講習会の翌日（6月23日）から9月30日までとしました。

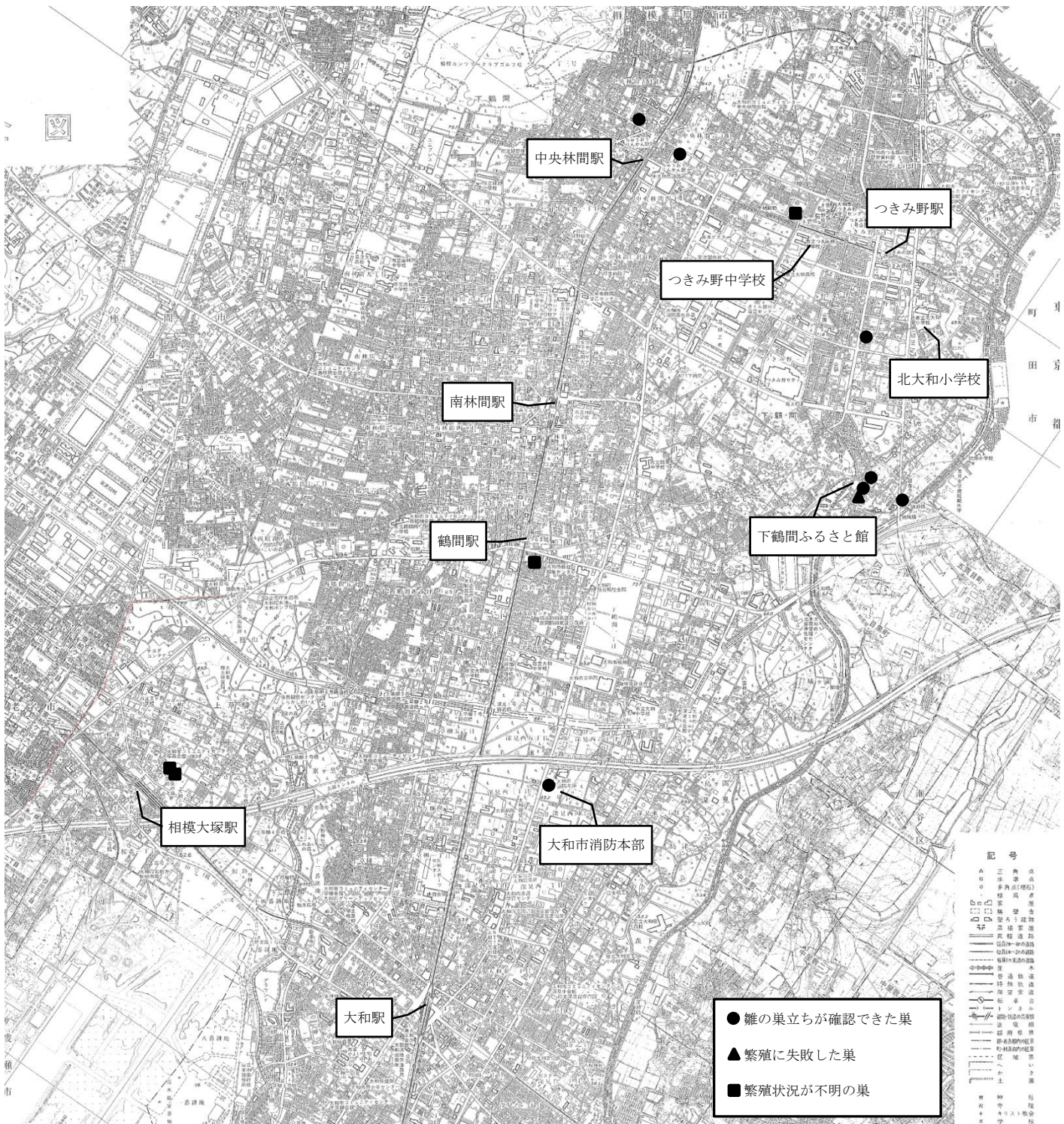
【参考】ツバメの子育て状況調査ホームページ：<http://tsubame.torimikke.net/>



## 4 調査結果

### 1) 北部～中部地域での営巣状況

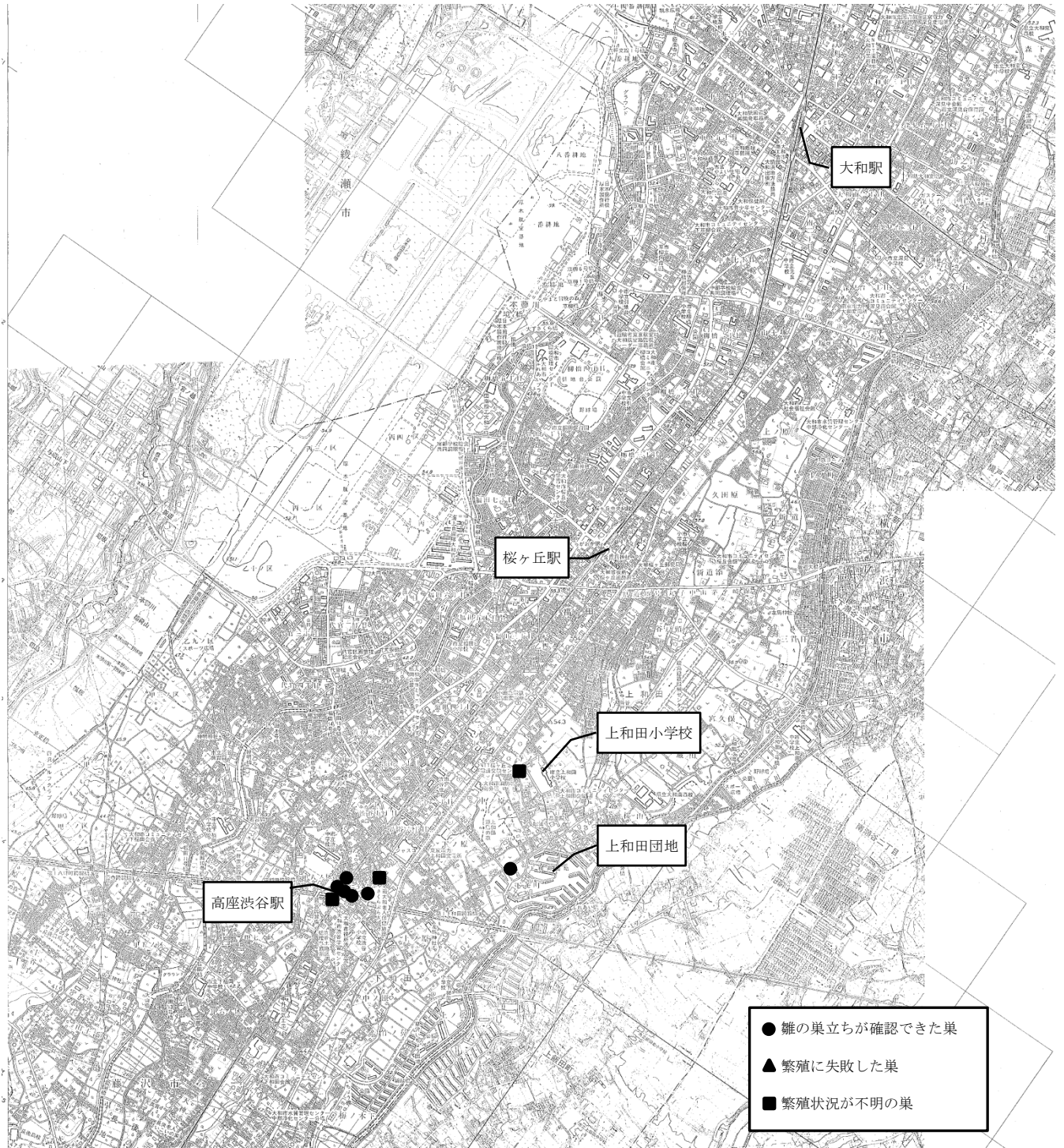
北部～中部地域では、中央林間駅周辺で2巣、つきみ野中学校周辺で1巣、北大和小学校周辺で1巣、下鶴間ふるさと館周辺で4巣、鶴間駅周辺で1巣、大和市消防本部に1巣、及び、相模大塚駅付近に2巣の、計 12 巣の営巣がみられました。しかし、大和駅周辺ではツバメの姿は見かけるものの、営巣は確認できませんでした。





## 2) 中部～南部地域での営巣状況

中部～南部地域では、上和田小学校付近に1巣、上和田団地付近に1巣、高座渋谷駅に5巣、及び、高座渋谷駅付近に2巣の、計9巣の営巣がみられました。南部地域において、桜ヶ丘駅周辺での営巣は確認できませんでした。





### 3) 繁殖状況について

- 雛の巣立ちが確認できた巣（地図上●標記の巣）

	巣立った雛の数	備考
中央林間駅周辺の巣1	5羽	
中央林間駅周辺の巣2	4羽	
北大和小学校周辺の巣	5羽	
下鶴間ふるさと館周辺の巣1	4羽	
下鶴間ふるさと館周辺の巣2	5羽	
下鶴間ふるさと館周辺の巣3	3羽	
大和市消防本部の巣	不明	
上和田団地周辺の巣	3羽	
高座渋谷駅周辺の巣	4羽	
高座渋谷駅の巣1	7羽	同じ巣で2回の繁殖があった
高座渋谷駅の巣2	4羽	
高座渋谷駅の巣3	3羽	
高座渋谷駅の巣4	4羽	1回目は繁殖に失敗

巣立った雛は最小3羽、最大5羽が観測され、合計51羽の雛が巣立ちました。1巣あたりで巣立った雛の平均値は、4.25羽となりました。

※1巣あたりで巣立った雛の平均値＝巣立った雛の合計÷雛が巣立った巣の合計  
（巣立った雛の数が不明だった巣は除いた）

- 繁殖に失敗した巣（地図上▲標記の巣）

下鶴間ふるさと館付近の巣の1つでは、3羽の雛が確認されていましたが、繁殖に失敗したようです。失敗した原因は不明です。また、高座渋谷の巣4では2回の子育てがありました。1回目についてはカラスに襲われたことが原因で、繁殖に失敗しています。

- 繁殖状況が不明の巣（地図上■標記の巣）

今回の調査では、全ての巣について雛の姿が観察されていますが、その後の観察記録がないため、繁殖状況については不明となっている巣です。

## 5 まとめ

データ数の少なさは、第 1 回目ということもあって仕方のないことです。しかしその中でも成果が出てきています。それは「高座渋谷駅」です。なぜ、ここにだけ、複数の巣の記録があったのでしょうか。近年、公共施設や道の駅などに多くの営巣が見られることが示唆されていますが、その傾向どおりなののでしょうか。他の駅ではどうでしょうか。興味深いですね。

巣作りの条件としては、巣材である土やわらなどを手に入れなければなりません。一体ツバメはどれくらいの距離を材料集めに使っているのでしょうか。可能なら巣材集めの現場を調べてみたいものです。

また、使われている巣はいつごろから使われているのでしょうか。今年初めて作られたのでしょうか。それとも毎年同じ巣を修理して使っているのでしょうか。継続して調査することによって同じ親が来ているのか、それとも新しい夫婦がやってきているのか、片親だけ別なのかなど興味がわいてきますね。

巣の位置のデータは集まりました。それでは巣が作られている環境はどうでしょうか。屋根下の壁でしょうか。それなら壁の素材は何でしょうか。照明器具のかさの上でしょうか。それなら照明器具の形状はどうでしょうか。大和市内で確認された巣の共通性は何でしょうか。そんな発展ができるのではないのでしょうか。

確認された巣のほかに、作りかけて壊れた巣はありませんか。壊れた原因は何でしょうか。作り方が雑だった。その場所の関係者に壊された。他の鳥（主としてカラス）に壊された。そんな原因が付随してわかるといいですね。

巣の状況を調査するときに、時間があればしばらくその場所において、親鳥がヒナのために 1 時間に何回えさを運ぶか数えてみませんか。その回数はふ化してからの日数で変化はありませんか。巣立ち間近になると回数が減ってきませんか。

確認された巣の数が少なくても、こんな調査をしています。こんなおもしろい事実がわかりましたという報告を続けていると、自然と興味を持つ人が増えてくるものです。興味を持てば周囲の状況が見えてきます。飛んでいるツバメを発見すると周囲を見て、巣を発見することができるでしょう。たとえば鶴間駅のそばの「マルエツ」の壁には使い終わったと思われる巣のあとが残っていました。相模大塚駅近くの薬局の巣は、店員さんが地面にフンを処理するためのダンボールを置き、手軽にきれいにできるようにしていました。

日本野鳥の会がまとめている全国からの報告例は、2014年度は約 2,000 巣でした。大和市内だけで 21 巣の報告があったことは比率からするとかなり多いといえます。この結果を数多くの市民に知らせ、興味を持つ人が増えていくのが楽しみです。「セミのぬけがら調査」でも最初のうちは今に比べると格段に少ない報告でした。

参考写真



横川SA（群馬県安中市）



監視カメラの上（長野県長野市）



丸い照明器具の上（横浜市青葉区）







## 平成26年度 大和市市民環境調査事業「ツバメ情報調査」実施報告書

- 協力 公益財団法人 日本野鳥の会  
公益財団法人 大和市スポーツ・よか・みどり財団 大和市自然観察センター
- 編集 大和市 環境農政部環境総務課
- 発行 大和市  
大和市下鶴間一丁目1番1号  
TEL 046-260-1111 (代表)



古紙配合率100%  
白色度70%再生紙を使用しています